学力向上通信　Vol. 5
「三重の学-Viva!!（まなびば）」

３月号

三重の学Viva!!

3
2015

発行者：三重県教育委員会
「学力向上緊急対策チーム」
連絡先：研修推進課
TEL：059-226-3572

※学-Viva：「Viva」は，「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

チームリーダーからのメッセージ

「オールみえ」で取り組む！

学力向上緊急対策チーム　チームリーダー　信田信行

県教育委員会事務局に学力向上緊急対策チームを設置して，早くも5ヶ月が経ち，4月21日まで残すところ40日余りとなりました。

この5ヶ月間，校長先生をはじめ多くの皆様と意見交換し，これまでの学力向上施策の検証や新たな取組の方向性を議論してきました。また，全国学力・学習状況調査結果の分析や公表，指導主事等の小学校訪問や学力向上通信「三重の学-Viva!!」の発行などを通じて，子どもたちの現状や課題，具体的かつ効果的な実践事例を「見える化」してきました。これらのことにより，学力向上に一丸となって取り組む方向性の共有や，授業改善に役立てたのではないかと思います。

県教委は，今後も，子どもたちの学力向上に，日々取り組まれている先生方を市町教委とともに引き続き支援していきます。

そのため，平成27年度の予算案では，学力向上施策について，今年度の当初予算と比べて増額をしています。具体的には，県内すべての公立小中学校において，全国学力・学習状況調査と「みえスタディ・チェック」，ワークシートの３点セットでの活用を促進します。また，各学校が調査結果や課題解決の取組等を，家庭・地域に公表・説明し，学校・家庭・地域が一体となり，児童生徒の学習意欲を引き出す環境づくりを推進していきます。

今後とも，県教育委員会事務局内に「学力向上推進プロジェクトチーム」を設置し，一定期間で成果をあげることを目指し組織を挙げて頑張ってまいります。

年度末を控えていますが，私たちみんながこれらの思いを共有し，県内すべての公立学校，学年，学級で，来年度も途切れることなく継続して授業改善をはじめとします学力向上に取り組んでいただきたいと思います。

引き続き，全ての教育関係者，さらには保護者や地域の皆様と一体となって，三重の子どもたちの輝く未来づくりに向けて，より一層取組を進めてまいりますので，よろしくお願いいたします。

学力向上緊急対策チーム「重点取組：小学校 250 校の訪問」から

昨年 10 月から本年 1 月にかけて，緊急対策チームの関係各課等の指定校等を中心に県内 257 の小学校を訪問し，管理職との面談や授業参観を通じて，それぞれの学校の現状や課題について意見交換をさせていただきました。学校訪問から各学校の課題改善への取組が見えてきましたが，改めて全ての教職員が以下について再認識し，日々の教育活動に取り組んでいただきたいと思います。

■■■次のような学校は学力向上の取組が進んでいることがわかりました■■■

- **管理職の学力向上のビジョンが明確である**
  → 教員も意欲的に授業改善に取り組んでいる。
- **県や市町の学力向上施策についての共通認識が図られている**
  → 学校で「施策のねらいについて」の共通理解が図られており，各学校の児童生徒の実態を踏まえた最も効果的な取組方法を選択している。
- **学力向上に関する危機感が共有されている**
  → 「生きる力を育成すること」が学校教育の責務であること，学習指導要領に則った教育課程の実施が学力向上の基盤であることをすべての教職員が認識している。

◆特集◆　４.２１全国学力・学習状況調査に向けて

全国学力・学習状況調査は，学習指導要領を踏まえた授業が日々実践され，児童生徒が確実に力を付けているかどうかを検証する指標となるものです。子どもたちの努力が目に見える形で表れるよう，今できることに取り組むことが必要です。

そこで

12 月末に各小中学校に配付した「まなびばセット」には，平成 22 年度作成の学習教材，平成 26 年度作成のワークシート，全国学力・学習状況調査問題（平成 24 年度），全国の教材事例を，２月末に配付した「まなびばセット」には，ワークシート集（学調Ａ問題）をそれぞれまとめています。

また，県教委小中学校教育課ホームページにも今までに出題された全国・学力学習状況調査のＡ問題・Ｂ問題をワークシートの形式で掲載しています。

今こそ，全国学力・学習状況調査の問題のほか，県で作成した「みえスタディ・チェック」，ワークシート等を積極的に活用してください。

４月 21 日当日，子どもたちが問題を見たときに混乱せず，日常の授業で培ってきた基礎的な知識や技能，思考力・判断力・表現力を発揮できるようにするには，当日までに，問題文を読むこと，与えられた情報を取捨選択すること，考えを文章でまとめることなど，調査問題の出題形式に慣れておくことも大切です。

ぜひ，年度末の授業で，そして春休みの課題として，各学校の実態に応じて小学校５年生及び中学校２年生で問題を活用してみましょう。

●●●全国学力・学習状況調査問題の活用例●●●

■年度末の授業で，調査と同様の時間配分で取り組む

※小学校は 40 分（A 問題は，国語・算数で 40 分），中学校４５分

- **学校にとっての効果**

  子どもたちが取り組んだ結果を過去の自校の結果と照らし合わせることで，児童生徒の学力の定着の確認のほか，指導の成果や課題が見え，授業改善につなげることができます。

- **子どもたちにとっての効果**

  今の自分の学習状況を把握することができるとともに，45 分間という時間の中で問題を解くペースをつかむことができます。

■年度末や春休みの「家庭学習の課題」として利用する

- **学校にとっての効果**

  子どもたちに具体的な課題を与えることで，計画的に家庭学習に取り組む姿勢を養うことができます。

- **子どもたちにとっての効果**

  家庭学習として取り組むべきことが明確になり，計画的に学習を進めることができます。特に春休みの課題とすることで，時間を確保してじっくりと学習に取り組み，自分の学習状況を振り返ることができます。

学力向上に向けた

具体的な実践事例

【事例３】南伊勢町立南島西小学校（実践推進校）

少人数であることを活かした，きめ細かな指導
「確かな学力」を家庭と連携して

取組１

● **全国学力・学習状況調査結果の分析に基づく，課題解決に向けた取組**

校内研修に学力向上アドバイザーを招聘し，「みえスタディ・チェック」と全国学力・学習状況調査の解答類型分析を全教職員で行った

◆ **課題（算数）**

- 設問を読み，何が問われているかを的確にとらえる力が弱い
- 問われていることについて，自分が考えたことを適切に表現する力が弱い
- 条件にあった説明をする力が弱い

■ **課題解決に向けた取組（算数）**

- 「めあて」を明示し，子どもに授業の見通しを持たせる
- 問題文中の「わかっていること」「聞かれていること」に下線を引かせることにより，題意を正しく読み取らせる
- 自分で考える時間を確保し，数式・言葉などを用いてノートにまとめさせる
- ペア学習や全体学習をとおして，ノートにまとめたことをもとに自分の考えを伝え合う言語活動の時間を確保する
- 「めあて」に応じた「振り返り」の時間を確保し，自分の言葉でまとめさせる

▶ **７月と 11 月に実施した「みえスタディ・チェック」の結果を見ると，単純に比較はできないものの，全学年の平均が７月実施より国語で 24.8 ポイント，算数で 5.6 ポイント向上！**

▶ **最後まであきらめず，問題に取り組む子どもたちが増えた！**

取組２

● **全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査を全学年で実施＆その結果の公表を通した地域・家庭との連携**

- 調査の結果を「学校便り」で全保護者へ配布 ▶ **生活習慣に関する課題を保護者と共有できた！**
- 調査の結果を保健室前に掲示 ▶ **児童が自らの課題を理解することができた！**

取組３

● **効果的な少人数指導の取組**

■ **クラスを２分割しての指導**

- ノート指導や「振り返り」活動の充実を図ることができた
- ペア学習やグループ学習・全体学習での子どもたちの発言機会が増えた

▶ **子どもの表現力を高め，思考力を深めることができた！**

■ **ティーム・ティーチング（T.T）による指導**

「わからないときにすぐ質問できる」という子どもの声や「ノートを二人の教師で見るので，子どもたちがノートをより丁寧に書くようになった」という教師の声

▶ **きめ細かな指導により「みえスタディ・チェック」のポイントが向上した！**

今後の取組

● **県教委が作成したワークシートや「まなびばセット」を春休み等にも活用する**

先輩 ~学力向上アドバイザー~ からのメッセージ

東紀州の現在（いま）・・・

各学校の校内研修会などで，「学調」「めあてと振り返り」「ワークシート」「みえスタ」など，子どもたちの学力を引き出すキーワードとなる言葉が頻繁に聞かれるようになってきたように思います。このコーナーでも他の学力向上アドバイザーが，子どもたちの学力を引き出すには，校長が学校の経営ビジョンを持ちリーダーシップを発揮する事が大切であると話しています。

このことを実践している校長が尾鷲市内の学校にもおられます。その学校の先生方は，それぞれの力を発揮し，日々の子どもたちのトラブル等にも子どものために全力を尽くしています。「今のままで本当に子どもたちの学力を引き出すことができているのか」と考えた校長は，先生方が子どもに寄り添う機会を多く取ろうと，朝の打ち合わせを放課後に変更することから改革の一歩を踏み出しました。

また，今年度からどの先生がどのクラスを担任しても即スタートできるように，「めあての提示・振り返り活動」の授業スタイルも統一しました。

さらに，「ワークシート」を既習学習の見直す機会として，学年を越えた復習に活用したり，先生が互いに学びあうために外部講師を招聘して，自主的に公開研修（3 回）をしたりしながら授業改善に取り組んでいます。みえスタディ・チェックの結果についても，12 月に個人懇談会で個々の子どもの学力の様子を保護者に伝えるなどして，家庭と連携した取組を進めているところです。

このように校長が一歩を踏み出すことで，大きく学校を変えていくことができます。学びたい，新しい情報を知りたいとの気持ちに満ち溢れている先生方の意欲に応えることは，子どもたちの学力向上のために大切なことではないでしょうか。

【学力向上アドバイザー　後藤　俊廣】

コラム

学力向上に関する取組状況調査より

「学力向上に関する取組状況調査」へのご協力，ありがとうございました。調査結果の一部をご紹介します。

全国学力・学習状況調査

- **平成 26 年度全国学力・学習状況調査の教科に関する調査問題を全教職員で解く等，調査問題を学校全体で共有する取組を行った。**
  - 小学校　358/378 校（94.7%）　中学校　152/159 校（95.6%）
- **平成 26 年度全国学力・学習状況調査の実施後，解答用紙をコピーし，自校採点や分析等を行った。**
  - 小学校　199/378 校（52.6%）　中学校　48/159 校（30.2%）
- **平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果及び分析結果等を全教職員で共有した。**
  - 小学校　371/378 校（98.1%）　中学校　156/159 校（98.1%）

みえスタディ・チェック

- **「みえスタディ・チェック」を実施した。**
  - 小学校　306/378 校（81.0%）　中学校　124/159 校（78.0%）
- **「みえスタディ・チェック」を再活用した。（結果を分析し授業改善に活かした）**※7 月の試行実施も含む
  - 小学校　353/365 校（96.7%）　中学校　134/147 校（91.2%）

ワークシート

- **ワークシートを活用した。**
  - 小学校　337/378 校（89.2%）　中学校　112/159 校（70.4%）

このような学力向上のための取組が進んできています。

４月から円滑にスタートするためには，これまでの取組で得られた成果や明らかとなった課題を確実に次年度へ引き継ぐことが大切です。取組の遅れている学校もありますが，全ての学校で子どもたちの学力向上に向け，充実した取組を進めていきましょう！！